



One Team 古北「授業の心得」

1 すべての児童が授業に参加している。

- 全員参加する手立てがある。
- 個々を大切にした授業づくりを行っている。

2 学ぶための土台(基礎基本)が自然にできる。

- 学ぶための土台(基礎基本)が自然にできている。
- 児童は話を聞くことを大切にしている。

3 「わかった」「できた」が見える。

- 学級の実態に合わせた適切な目標設定・指導過程がある。
- めあて・目標が板書されている。
- 発問により、児童の問題意識が生み出されている。
- 課題をどのように出合わせるか工夫している。
- 黒板を見れば、本時の授業の学びが見える。
- 振り返る場面を設定し、自分自身の学びを振り返っている。

4 授業中に変化がある。

- 指導内容に合わせて学習形態を工夫している。
- 気づき(発見・驚き)のある授業を心がけている。
- 中心発問は、ねらいにせまったり、子どもの思考を揺さぶったりしている。
- じっくりと考えたり、深めたりする時間が保障されている。
- 教育効果を高めるために、アナログ、デジタル(学習用端末)、ICT機器のベストミックスを模索している。
- 話を聞くだけの授業をしない。

5 さらにレベルアップを目指す。

- 異学年交流、ゲストティーチャー、地域社会とのつながり等を生かした授業に挑戦する。
- 同僚や他校教員の授業や授業研究会、講演会等に、積極的に参観する。
- 自らの授業を公開し、自らの授業力を磨く。
- 教師の発問、手立て、児童の学びの姿について、教員同士で語る。



古北小キャラクター「リーダー7」